

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第53号

[2013年6月号]

メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第53号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次> [ページ]

平成25年度 活動報告会を開催します	[2]
メソトマンスリー	[3]
国内から	
・ 私の原点	[5]
今月の一枚	[6]
編集後記	[6]
次号の予定	[7]



平成25年度 活動報告会を開催します

平成25年度 活動報告会を下記の要領により開催いたします。
賛助会員以外の方にも公開しておりますので、お知り合いの方も是非お誘い合わせの上ご参加ください。

1. 日時

平成25年9月8日(日) 13:30~17:00 (13:00 開場)
・報告会 13:30~16:00
・懇親会 16:10~17:00

2. 場所

林野会館 6階 会議室603
〒112-0012 東京都文京区大塚3丁目28番7号

<交通アクセス>

- ・地下鉄丸ノ内線「茗荷谷」駅下車徒歩7分
- ・地下鉄丸ノ内線「新大塚」駅下車徒歩10分
- ・都バス「千石三丁目」下車徒歩1分
- ・山手線「大塚」駅下車(南口)徒歩20分
- ・有楽町線「護国寺」駅(3番出口)下車徒歩12分
- ・地下鉄三田線「千石」駅(A4出口)下車徒歩12分

<地図> <http://rinyakaikan.or.jp/access/index.html>

3. 内容

*年次活動報告 事業・会計報告

*現地活動報告

①「タイ社会の中で -ビルマ移民学校、平和と友好の音楽交流会-」

当会は学校保健の活動に取り組んでいます。

今回は、現地スタッフの田畑看護師より学校保健部門での現地活動、移民学校の現状などについてご報告します。

②「変わり行くビルマと国境の人々」

現在、現地派遣員としてメータオ・クリニックで活動している前川看護師が8月をもちまして活動を終了します。2年間にわたる前川看護師の活動をご報告するとともに、ビルマの民主化から現在に至るまでのタイ/ビルマ国境とメータオ・クリニックの様子をお伝えします。

4. 定員 先着60名

5. 参加費 500円(資料代、懇親会費含む)

6. 申込み

参加ご希望の方は、

(1)氏名 (2)住所 (3)所属 (4)電話番号 (5)パソコンメールからの連絡がつくメールアドレス (6)賛助会員の有無 をご記入のうえ、前日までにメールでご連絡ください。



メールタイトルは「活動報告会申込み」とご記入をお願いいたします。

申し込み、問い合わせ先： support@japanmaetao.org 担当：淵上

皆様のご参加をお待ちしております。



メソトマンスリー

【メソト=前川 由佳、田畑 彩生】

ユヤさんとの出会い

～メータオ・クリニックで患者さん、ご家族の尊厳について考える～

「息苦しい、咳が止まらない。喉が渇くのに水が飲めない、好きな食べ物も喉を通らない。」

眉間にしわを寄せ、小さな肩で息をする彼女は、ユヤさん23歳。JAMの紹介ビデオへもご出演していただいています。

彼女は、ビルマ（ミャンマー）のパゴーにお父さんとお母さんと16歳と8歳の二人の妹の5人で暮らしていました。幼い頃から始まった動悸、メータオ・クリニックなら治療をしてもらえるとの噂を聞いて、母と2日かけて国境を越えてやって来ました。

「私たちは頼る所が無いです。この病院を頼りにしています。」母は一生懸命説明します。そう、お金のない人はミャンマー国内では今も医療は受けられません。

メータオ・クリニックには、BCMF（ビルマ子ども医療基金）という団体が有ります。現在のBCMFは年齢制限を設けず、心疾患や慢性的な疾患で苦しむ患者さまも支援対象として重点的に支援しており、患者さんは無料で治療を受け、ご家族も無料で滞在することが出来ます。

彼女は、諸症状から心疾患か腫瘍を疑われ、チェンマイの病院で再検査と治療をしてもらう事になりました。

しかし、診断結果は意外なものでした。

手術が必要な先天性な心疾患と左肺のがん、甲状腺がんが見つかったのです。彼女は、手術を受けたいと願ったそうです。医師からは、手術は困難である旨の説明を受け、診断を受けたタイの病院から降圧剤、利尿剤などの心臓のお薬をもらい退院。

そこで、しばらくの間、クリニックの古くからの友人である台湾人のシルビアさんの自宅で療養することとなりました。シルビアさんは、自らの経験を元に、「がんなどで国境の滞在先をさまよう事の苦しみを、もう誰にも2度と繰り返してほしくない。」とメータオ・クリニ



ックと連携し、がんなどの患者さまの療養施設を現在計画しています。そして、ユヤさんは、治療が困難な患者さまの為の療養施設利用者の1人目となりました。もしもの時にはどの様にすれば良いのか、自宅酸素療法の注意点など療養施設の家主さんと情報を交換しました。シルビアさんも、とても不安な様子を浮かべていた事を思い出します。

ユヤさんは、自宅酸素療法を実施し、教会で歌を聴いたり、お寺で瞑想をしたり、庭に出て風に吹かれ、母が療養所の庭仕事をする様子を眺めながら1つの小さなバンガローで療養していました。療養施設で暮らし始めて3ヶ月、そんなある日、彼女から「村へ帰りたい。家族と過ごしたい。」と母に訴える様になったのです。



(写真左がユヤさん)

そこで、ユヤさんのお母さんは、メータオ・クリニックへ相談。

BCMFで心疾患手術を受けた子どもさんのご家族が協力を申し出て、ビルマから車を走らせメータオ・クリニックまでユヤさんを迎えに来て下さる事になりました。

前日、出発の準備を整え、メータオ・クリニックの内科病棟へ再入院した彼女は、とても穏やかでした。咳も無く、動悸も無く、いささか首の腫脹も縮小しているかの様にさえ見えました。「小さくなったでしょ。」と首をさする母に、うなずいて笑顔を見せるユヤさん。翌日の早朝、クリニックの入り口へお母さんと一緒に歩む彼女の表情は、ほんのり微笑んで柔らかいものでした。入り口の待ち合い場所で、いつもの朝の様に、彼女の大好きなチキンサンドイッチで朝ご飯を。掌程の小さな三角形のサンドイッチ。「美味しいね。」という言葉に深くうなずいて、「好きなの。」とゆっくりと噛み締める様にひとつのサンドイッチを食べていました。小さく割られたお菓子をのみ、お腹がぼっこりしたと、母と見せ合っていました。朝日がさす中、その時間はとても心地よい穏やかな時間でした。

車のお迎えが来て、たくさんの荷物を車に積み、酸素の準備もして車に乗り込みます。さよならと手をあげて、お母さんと笑顔で去っていったユヤさん。

今頃、ミャンマー（ビルマ）の友好の橋を越え、ミヤワディーから無事に村へ着いている頃でしょうか、家族揃って妹たちに囲まれて、いつもの様な日々を過ごせているのでしょうか。



(写真：ユヤさんとお母さん)

手術が出来なくとも、ここ国境でのメータオ・クリニックでの最高の治療は、疾患を抱えた患者さんやご家族に困難を感じさせることが最小で済む様にすること。その患者さんとご家族がその人らしく毎日を生きていける様にすること。病と闘う人々の思いや訴えを聴き、最期の方針について患者さまが心の底から自分で選択出来ていると感じられる様に関係を築くこと。病との闘いから共存を選ぶ選択への移行がスムーズに進む事でもあり、どこか気持ちの落ち着く点をご家族と共に探し育む事なのではないかと感じました。これらは、大切にされなければいけないと強く思います。その為に、多くの人々との連携をとること、協力し合うことも大切な役割なのだと。

毎日を心地よくその人らしく生きる為の関わりは、多過ぎてても少な過ぎててもいけない。

今、改めて個人の尊厳の大切さとそのきらきらする尊さに気付かされました。メータオ・クリニックで看護師が出来ることは、もっとたくさんあるのではないかと。看護とは何かについて、病棟を訪れる度に考える機会を頂いています。

国内から 私の原点

【東京＝梶 藍子】

「ハゲワシと少女」という写真をご存知でしょうか。

アフリカ・スーダンで飢餓死寸前の少女をワシが狙っているというショッキングな写真が世界で物議を醸しました。この写真は1994年ピューリッツァー賞を受賞され、私は中学生のとき授業の中でこの写真をはじめてみました。その写真をみた瞬間の、今までにない衝撃を受けたことを覚えています。あれから、約20年経ちますが、あの写真がその後の私の人生を変えたと言っても過言ではありません。

この記事を書いている私は今、那覇空港にいます。ご縁があり、2日間沖縄県の看護系大学で「看護職のグローバルキャリア」と題して、国際看護、国際保健に関する講義をさせていただきました。私の看護師としての日本での臨床経験、メータオ・クリニックでの医療活動、米国の大学院で公衆衛生を学んできたことなど、今までの進路についてお話しさせていただきました。その講義の中で私が最も強調したのは、「なぜ看護の道を選んだのか？」と問いかけです。私は上述した写真との出会いにより、あの写真の少女のように世界の中で貧困と紛争に苦しむ人たちのために役に立ちたいと思い、途上国で医療活動を行うことを目標に看護の道を選びました。

新人看護師として病棟で勤務している頃は、「私って看護師に向いてないかもしれない。」「患者さん本位に何も動けてない。」と毎日のように悩み、周りの先輩看護師には厳しく指導され、時には仕事を辞めることも考えていました。そんなとき私を奮い立たせてくれたのは私の原点です。なぜ私はこの職業を選んだのか。どうして今まで苦勞してこの世界に入ろうと決めたのか。この原点が私に勇気を与えて看護師として病院で働くこと、ついにメータオ・クリニックで働くという道に光をあててくれました。この原点がなければメータオ・クリニックを通じて出会ったビルマの人々、このメータオ・クリニック支援の会にも出会わなかつ



たかかもしれません。

8月より再び米国の大学院に進学し、ビルマの難民、移民の健康問題について研究を進め、また現場で働くことを希望しています。掲げる目標が将来また途上国の保健医療の問題改善につながられることを信じ、研鑽していきたいと思えます。



(写真：沖縄での講義の様子)

今月の一枚



アンティーク、西洋骨董が好きな方におすすめ情報です！
このメソットの国境沿いにはアンティークショップがたくさんあります。
イギリス統治時代のビルマで使われていたものたちです。
どれもこれもレトロでかわいい、宝箱のような空間。
そこにいてだけで癒されちゃいます。

編集後記

先日、東京の福生（ふっさ）市にある横田基地で駅伝大会があったので出場しました。
5km×4人で1チーム。私は2番走者。5kmって意外と長い！！暑いし、途中であきらめたい！と何度か思ったものの、私がタスキを持って戻らないと残る2人が走れないのでがんばりました。無事に4人で2時間をぎりぎり切ることができました。



